



木更津に陸上自衛隊オスプレイ

飛行訓練中止・「暫定配備」撤回を申し入れ

防衛省は7月に、木更津駐屯地への陸自オスプレイ2機の「暫定」配備を強行しました。将来的に17機となります。日本共産党千葉県議団は9月2日、森田健作知事に対して「暫定配備」撤回などを国に求めるよう申し入れました。

千葉県全域をオスプレイが飛行

防衛省は「9月にも木更津駐屯地周辺での飛行訓練を開始し、11月頃には千葉県内外の演習場や基地へ飛行する」としており、木更津市だけでなく、習志野演習場や海上自衛隊下総航空基地をはじめ、県内の「場外離着陸訓練場」など千葉県や首都圏の空をオスプレイが飛び回ります。

日・米オスプレイの拠点にするな

同駐屯地は、すでに米軍オスプレイの定期整備拠点にもなっています。木更津を日・米オスプレイの整備・出撃基地に変貌させてはなりません。

習志野演習場

米軍機から陸自空てい団が降下

習志野演習場で9月14日、15日に陸上自衛隊第一空てい団が米空軍機を使ってパラシュート降下訓練を行いました。(14日は悪天のため中止)

防衛省は「米空軍機を活用して降下回数を増やし、空挺作戦の技量向上を図るため米軍機を使用」としています。

「米軍横田基地からきた空軍機に海自厚木基地(神奈川県)で陸自隊員が搭乗し、習志野に降下する」と説明しました。

住宅密集地で日・米共同の軍事訓練 防衛省に中止を求めました

これまでも習志野演習場での日米共同訓練は、市民に公開している陸自第一空てい団「降下訓練始め」(1月)で行われていましたが、通常の演習では初めてのことです。

日本共産党県議団は9月14日、はたの君枝衆院議員、さいとう和子前衆院議員、丸山慎一前県議らと防衛省に抗議と降下訓練の中止を要求しました。

安保法制=戦争法のもと、海外で「戦争する国づくり」がすすめられ、日米軍事一体化の動きが強まっています。

日本共産党は、軍事力優先ではなく、憲法9条をいかした平和外交の推進を提唱しています。



申し入れ書を手渡す加藤英雄県議(右)とみわ由美県議(中央)

申し入れ事項

1. 木更津市への陸上自衛隊オスプレイの「暫定配備」と飛行訓練をやめるよう、国に求めること。
2. 少なくともオスプレイの飛行・訓練の影響を受けると考えられる地域の住民に対する十分な説明、同機の飛行・訓練の事前公開などを国に求めること。
3. 米軍オスプレイ定期整備能力の拡大についても撤回を求めるよう、国に要請すること。

9月定例県議会(9/16~10/13)

傍聴にお越しく下さい

9月29日(火) 午後3時頃

加藤英雄県議一般質問

10月6日(火) 文教常任委員会(10時)

(加藤英雄議員)

10月7日(水) 健康福祉常任委員会(10時)

(みわ由美県議)

*新型コロナウイルス感染防止のため
マスク等を着用して下さい。